



お客様、社会のニーズに応える
 新たな「物流エコシステム」を創出し、
 次の時代も豊かな社会の創造に
 持続的な貢献を果たすとともに、
 収益性の改善を加速させてまいります。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第156期第2四半期(2020年4月1日~2020年9月30日まで)における経営環境は、新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワークの推進、診療や教育分野におけるサービスのオンライン化など、ライフスタイルやビジネス環境が変化する中、EC利用者の裾野が拡大するなどEC領域の成長が加速しています。一方で、世界的な経済活動の再開に伴い、生産活動や貿易に持ち直す動きが見られたことに加え、官民一体型の需要喚起キャンペーンなどによりサービス業でも景況感に底打ちの兆しが出ていたものの、今後の経営環境への影響は依然として不透明な状況にあります。

このような状況のもと、ヤマトグループはお客様、社会のニーズに応える「新たな物流のエコシステム」を創出することで、豊かな社会の創造に持続的な貢献を果たしていくため、中長期の経営のグランドデザインである経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」に基づき、宅急便のデジタルトランスフォーメーション、ECエコシステムの確立、法人向け物流事業の強化の3つの事業構造改革と、グループ経営体制の刷新、データ・ドリブン経営への転換、サステナビリティの取組みの3つの基盤構造改革を推進しています。

当第2四半期においては、新型コロナウイルスの今後の感染状況や収束時期が不透明な中、引き続き、お客様、社員の安全

を最優先に、宅急便をはじめとする物流サービスの継続に取り組みました。また、ライフスタイルやビジネス環境の変化によりお客様に生じる課題の把握に努め、成長が加速するEC領域において、新配送サービスの拡販と更なる利便性の向上に取り組むなど、多様化するニーズへの対応を推進するとともに、グループ全体でアカウントマネジメントを強化し、遠隔医療分野における遠隔処方領域において調剤薬局様に向けたソリューションを提供するなど、お客様の課題解決に取り組みました。

これらの結果、連結業績は、営業収益は成長が加速するEC領域に対応したことで、荷物の取扱数量が増加したことなどにより前年同期に比べ増収となりました。また、営業利益については、荷物の取扱数量が増加する中、データ分析に基づく経営資源の最適配置による集配効率の向上や幹線輸送の効率化推進により費用の適正化に取り組んだことなどにより、前年同期に比べ増益となりました。

ESGの取組みとしては、持続的な成長と持続可能な社会の発展を両立するため、経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」に基づき、サステナビリティの取組みを推進しています。持続可能な未来を切り拓く将来の姿として掲げたビジョン「つなぐ、未来を届ける、グリーン物流」と、「共創による、フェアで、“誰一人取り残さない”社会の実現への貢献」のもと、人や資源、情報を高度につなぎ、輸送をより効率化させることで、環境や生活、経済によりよい物流の実現を目指し、特定した重要課題に対する取組みを推進しています。

今後も、お客様、社会のニーズに応える新たな「物流エコシステム」を創出し、次の時代も豊かな社会の創造に持続的な貢献を果たすとともに、収益性の改善を加速させてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後もヤマトグループに、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 社長執行役員

長尾 裕

決算 ハイライト	前第2四半期(累計) (単位:億円)	当第2四半期(累計) (単位:億円)	増減 (単位:億円)	伸率
営業収益	8,001	8,060	▲ 59	0.7%増
営業利益	62	269	▲ 207	333.2%増
経常利益	27	279	▲ 252	923.0%増
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	△34	141	▲ 176	—